

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2017-11-01

No. 92

株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation
〒516-2102 三重県度会郡度会町大野木 3571 番地 2

本社・大野木事業所
<http://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary.....	2
IEC: 規格解説: CISPR 16-2-3 Edition 4.0 2016-09 放射妨害測定.....	3
IEC: 新規格リスト.....	6
ISO: 新規格リスト.....	9
UNECE: 国際テーマ: 規制 No. 10 (電磁両立性) 05 シリーズ補足 2 への提案.....	10
UNECE: 国際テーマ: 1958 年協定の改訂 3 — 質問及び回答(2/3).....	12
国際テーマ: インドの強制登録対象製品の追加.....	14
国際テーマ: 無線機器のサウジアラビアの認可要件.....	15
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲.....	15
USA: FCC: KDB: 被交付者コードの意味 被交付者コードの取得方法等のガイドライン.....	16
USA: FCC: FCC のフォーム 740 に関係する適用免除期間の延長.....	16
USA: CPSC: 有害な添加物、非ポリマー系有機ハロゲン難燃剤 OFR: ガイダンス文書.....	16
USA: OSHA: 国家認定試験所(NRTL)プログラムの概要 (4/6).....	17
USA: FDA: 超音波シアテルミー装置: ポリシーの明確化と市販前通知 (510(k)) の提出.....	18
USA: FDA: レーザ照射プロジェクトのクラス分けと要求事項: ドラフトガイダンス.....	19
USA: 自動車安全基準: 電気自動車: 電解液の流出および感電防止: GTR No.13 と整合.....	19
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知.....	20
USA: ANSI/UL: 新規格リスト.....	20
USA: IEEE: 新規格リスト.....	23
カナダ: 官報通知 SLPB-006-17—スペクトラム展望 2018 – 2022 に関する協議.....	23
EU: 解説: 無線機器指令(1999/5/EC 及び 2014/53/EU)整合規格リスト公表.....	25
EU: RED 関連実施規制(EU) 2017/1354: サービス投入に関する制限へのピクトグラム.....	25
EU: 機械指令 2006/42 / EC の適用ガイド第 2.1 版 (第 2 版の更新版) 2017/7 に発行.....	26
EU: CENELEC: 新規格リスト.....	26
EU: ETSI: 新規格リスト.....	30
オーストラリア: 無線通信 (HF CB 及び手持ち電話無線送信機規格) 2017 発行.....	31
オーストラリア: 無線通信(DECT デバイス) 規格 2017 発行.....	31
中国: CQC: オーディオビデオ機器、通信端末機器、及び情報技術機器の実施細則改訂.....	32
中国: CQC: 電源トランス製品への新版規則の実施に関する通知.....	32
中国: CQC: データセンターのインフラ認証実施規則 等の改訂に関する通知.....	33
中国: CQC: 風力発電機シリーズ製品の認証規則改訂に関する通知.....	33
中国: 新規格リスト.....	34
台湾: 電子製品 3 製品の商品検証業務委託処理の検証カテゴリー及び検証項目を通知.....	36
台湾: 検査対象の電動自転車用充電器など 4 項目の商品の関連検査規定を改正.....	37
台湾: スマートメーター端末および家庭エネルギー管理システム端末の通信モジュール.....	37
台湾: 家庭エネルギー管理システムへのスマートメーターの通信技術規範を通知.....	38
台湾: 新規格リスト.....	38
韓国: 放送通信機資材などの適合性評価に関する告示の一部改正案行政予告通知.....	39
韓国: 電磁両立性試験方法の改正案の電子公聴会の実施.....	39
総務省: 総務省主催 4K・8K 放送に関する電波漏洩に関する技術講習会.....	40
総務省: 陸上無線通信委員会: 5.2 GHz 帯及び 5.6 GHz 帯を使用する無線 LAN.....	41
総務省: 無線局免許申請手続等に係る規制緩和等を図る制度整備: 意見募集.....	41
総務省: 「LTE-Advanced 等の高度化に関する技術的条件」 — 一部答申 —.....	42
経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について (通達) の一部改正.....	42
経済産業省: 日本工業規格 (JIS) を制定・改正 (平成 29 年 10 月分).....	43
国土交通省: 車線維持支援機能に関する国際基準を導入.....	44
ちょっといっふく〜小クイズコーナー サウジアラビアの無線機器の認可機関について.....	15
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内.....	24
社長の独り言.....	45



IEC: 規格解説: CISPR 16-2-3 Edition 4.0 2016-09 放射妨害測定

- CISPR 16-2-3 Edition 4.0 無線妨害及びイミュニティ測定機器及び方法の仕様 – Part 2-3: 無線妨害及びイミュニティ測定方法 – 放射妨害測定 が、2016-09 付で発行されている。
- ログペリダイポールアレーアンテナの位相中心を考慮した電界強度の補正に関する内容を追加。アンテナの基準点(通常、物理的中心点)から EUT の境界までの距離を例えば、所定距離 3m に設定したとしても、測定周波数でのアンテナの位相中心(電気的中心)がその基準点と異なる場合、実際の測定距離は 3m と異なってくる。ここでは周波数に対応した補正係数を適用して、試験距離における正しい電界強度を得ることができる方法を述べる。

国際テーマ: UNECE: 規制 No. 10 (電磁両立性) 05 シリーズ補足 2 への提案

提案文書 ECE/TRANS/WP.29/GRE/2017/12 が発行された。

- 本提案文書は、規制 Regulation No. 10 を、CISPR 12 規格の車両狭帯域限度値、及び最新の CISPR 12 の充電モード車両用セットアップ (疑似電源、ハーネス位置、Z-フォルディング、 ...)と整合が取れるようにする目的をもって、TF EMC により作成された。
- 変更は新に対しては太字でマーク付けされ、又は削除文字に対しては取り消し線がひかれている。
- 以下等の変更がある: - 05 シリーズ修正の車両ナローバンド基準限度値 (3m 及び 10m における)を、CISPR 12 ナローバンドのものと、整合を取らせることが提案された(型式承認に対するより厳しい要求として、CISPR 12 に定義されている CISPR12 ナローバンド限度値 マイナス 2 dB)。

USA: FCC: KDB: 被交付者コードの意味 被交付者コードの取得方法等のガイドライン

KDB: 知識データベース

- 被交付者コード Grantee Code とは何か、被交付者コード取得のガイドライン、被交付者コード情報の変更、被交付者コードの名義変更制御、及び被交付者コード登録番号紛失時の回復方法は？

EU: 解説: 無線機器指令(1999/5/EC 及び 2014/53/EU)整合規格リスト公表

- 2017/10/13 付け欧州連合官報で委員会通信により整合規格リストが公表された。今回、" 初めての公表 "として追加されている規格は 4 件。今回公表規格では、条件付きで使用可能としているものはない。

総務省: 陸上無線通信委員会: 5.2 GHz 帯及び 5.6 GHz 帯を使用する無線 LAN

- 情報通信審議会 情報通信技術分科会 陸上無線通信委員会 5GHz 帯無線 LAN 作業班 (第 7 回) 5.2 GHz 帯及び 5.6 GHz 帯を使用する無線 LAN の技術的条件 が審議され、報告書 (案) が作成された

経済産業省: 電気用品の技術上の基準を定める省令の解釈について (通達) の一部改正

- 定格電圧 450/750V 以下の塩化ビニル絶縁ケーブル、定格電圧 450/750V 以下のゴム絶縁ケーブル、家庭用及びこれに類する電気機器の安全性、照明器具、雑音の強さに関する基準で、改正があった。その他いくつかの基準は、削除予定されている。

社長の独り言

平成 29 年 10 月 22 日

濱口 慶一

この原稿を書いている日曜日は、選挙の投票日であることに加え、伊勢湾台風より大型で強い台風が日本に上陸しようとしています。衆院選の投票と食料の仕入れの帰り道に喫茶店に立ち寄って書いています。台風による被害が大きくならないことを願っています。

大型の台風の襲来になるので、日本蜜蜂の巣箱が風で吹き飛ばされないようにロープで支える作業が残りますが、それよりメダカの水槽があふれて、あふれた水と一緒にメダカが流されないかが心配で、何とかしようと思いが募ります。日照り続きで少なくなった水槽の水量を程よい程度に増やしてくれるだけなら良いのですが、降水が過ぎると余分な水があふれる危険性があることになります、大地震の時のように想定外として何もしないのが良いのかもしれませんが、徹底して、過去の経験や近代の知識や技術をもって危険の度合いを想定するのが本来の対応と思います。

私は製品安全の業界に入ってから約 40 年が過ぎましたが、その過程でこのリスク分析に関して多くのヨーロッパの認証機関の技術者から教わったことが沢山ありますので、その中の重要と思う 2 つの考えをご紹介します。

一つは、安全を確保するには二重化が基本となるという考えです。安全を確保、維持するための何かの機構や回路や部品、ユニットなど、システムも同じだと思います。一故障が生じて、他の機構がきちんと安全を確保する機構が出来ていること、二重化で安全を確保する考え方です。もう一つは、特定の保護システムを規格上、故障すると仮定して、製品の安全を確保する必要があることです。例えば典型的な構造に、感電の危険性からは二重絶縁構造と最大電圧の規定で直接接触での感電の危険性から保護する考え方です。二重絶縁には基礎絶縁と付加絶縁と言う 2 層の絶縁構造が求められ、その中の基礎絶縁は、故障する（破壊する可能性がある絶縁）として絶縁厚の規定された付加絶縁が要求されることです。

基礎絶縁は設計開発時に、いかなる絶縁材料を使用しても、設計開発上それが基礎絶縁としての機能として規定されるなら、それが何かの現象で破壊する可能性のある絶縁として、追加の絶縁構造が要求されることなのです。しかし、医療機器等で申請者の方に照会事項として疑問を投げかけると、絶対に故障しませんからと言われてしまい、判断に苦慮することがあります。日本政府は、色々な分野に IEC 規格を日本の JIS 規格に採用しています。日本国内の特殊な環境を考慮して、少し修正されている部分もありますが、製品安全の基本考えは IEC 規格の長い歴史と多くの技術者が改良してきたものと言えると思います。

読者の皆様におかれましては、自社製品のリスクアセスメントの基本的な考え方を IEC 規格の考え方にそって判断されるように願っています。日本国内特有の事情として法律的に許されている項目でも、万が一こう言う使い方をされたら事故が生じる、またはこういう使い方の時に事故が生じたら保護されない可能性があるといった視点から危険分析をしていただきたいと思います。例えば、医療機器で患者の容体急変に対して、心電計などがナースコールをブザーで知らせる機能があっても、現在医療関係では人員の不足などで、現場のスタッフがナースコールのブザー音を切ってしまう、事故に生じることもあるようです。こういうナースコール解除は、特定の役職のスタッフしか解除できないようにソフトまたハード上で制御する時期に来ているように思うのですが、いかがでしょうか？

● ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで sales@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購読案内は、<http://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO : European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2017-11-01 (No. 92)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレーション 松阪事業所 <http://www.safetyweb.co.jp/>

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2017 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。